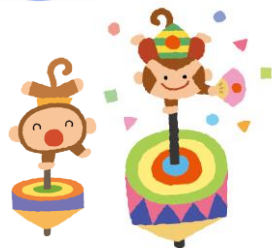




にじのはし幼稚園 園だより

平成28年 1月号
港区立にじのはし幼稚園
園長 新井智子



大人として 子どもとして

園長 新井智子

明けましておめでとうございます。

穏やかな年明けとなりました。この一年、子どもたちが元旦のように光溢れ和やかに過ごせることを願い、教職員一同、心を一つにして教育活動に力を尽くしてまいります。

今年は申年です。申という文字は、樹木の果実が熟して固くなる様子を字源としているそうです。私たちにとっては、申よりもサルの方が馴染み、子どもたちへの話もサルに関してのことばかりです。サルと言えば、日光東照宮の神厩舎に彫られている『三猿』が有名ですね。『三猿』は、人の一生を比喻した彫刻で、厩舎を取り巻いた8場面のうちの2場面目のことを言います。『三猿』は、丁度幼少期を表し、「聞かざる 言わざる 見ざる」の猿の姿は、「この年頃の教育は、世の中の悪いものは『聞かせない 言わない 見せない』ようにして、よいものだけを素直に吸収させ成長させる」という意味があると言います。きっと、大人側の心構えを言っているのでしょうね。確かに、分別ある大人が子どものために悪影響のものは避けていくことは大事です。暴力的行為、非人道的な言語、間違った情報など幼少期には決して触れさせてはならないものです。

しかし、幼稚園における教育では、子どもたちに「よく聞き、よく話し、よく見る」意欲や態度を育むことを重視しています。サルのように行動的に動き、知的好奇心を働かせ、感性をフルに活用して物事に取り組み、体験を通して学ぶことが大切です。時に失敗し、後悔することもあるでしょう。様々な体験の山や谷を越えて、自分の耳や目でしっかりと見聞きし、考えを話す子どもになってほしいと思います。その経験を積んでこそ、物事の良し悪しを知り、判断力を身に付け、その子なりの価値観を高めていくのです。また、見聞きしたことでも時には言っただけではいけないことがあるという思慮深さも身に付けていくことでしょう。

お正月、大人として子どもに心がけること、子どもとしてすべきこと、『三猿』をきっかけにして多くのことを考えさせられました。

三学期は、「行く一月 逃げる二月 去る三月」あっという間に過ぎていきます。しかし、子どもたちにとってはそれぞれの学年なりに一年のまとめの大切な時期であり、『申』の字源通りの実りとなる学期です。発表会、修了式という行事や節目だけではなく、日々の生活の中でも子どもたちの成長の実りを感じられるよう、誠心誠意指導してまいります。

今学期もご協力のほど、どうぞよろしくお願ひいたします。



3歳 中学生との交流



4歳 冬の海辺遊び



5歳 潮風公園徒歩遠足



ようこそ！ うーちゃん

